

新しい授業づくりの文化を創る

令和4年6月27日 「能力ベースの授業づくり実践講座」授業研究会

第4号

能力ベース授業づくり実践講座は、教材研究会と授業研究会をセットにして実施します。今回は、初めての授業研究会でした。受講者からは「教材研究会があったことで、授業を見る視点が定まった」「前回の教材研究会に立ち戻って、受講者同士で話すことができた」等の声もあり、セット受講ならではの視点を持って、協議し、齊藤先生から学んだ様子を紹介합니다。



研究授業 第6学年 国語「帰り道」

授業者 山埜 善昭 教諭(吹田市立豊津第一小学校)

授業者の改善提案

【教材研究会での学びを踏まえて】
言語活動のリライトを、1回から3回に変更
律と周也の視点の比較読みをする中で、「複数の叙述を結びつけながら、人物像と人物の心情の変化、全体像を具体的に想像する力」をつけるために、リライトを繰り返すことで言葉(対象)と言葉の関係性の再構築を行うことができる。また、視点の転換や「行こっか。」「うん。」の余白等、1人称視点で書かれた『帰り道』でしかない教材の特性を生かしたい。

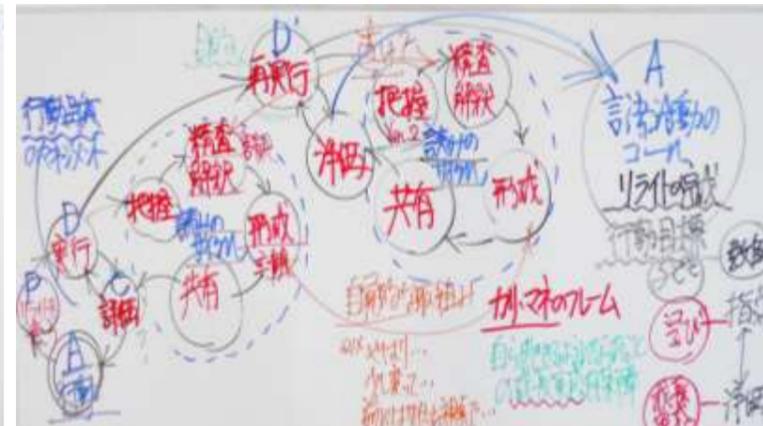
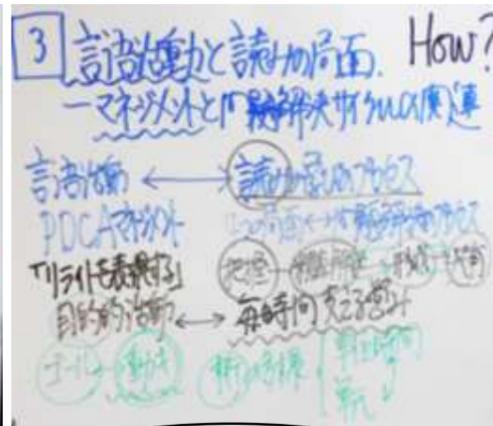
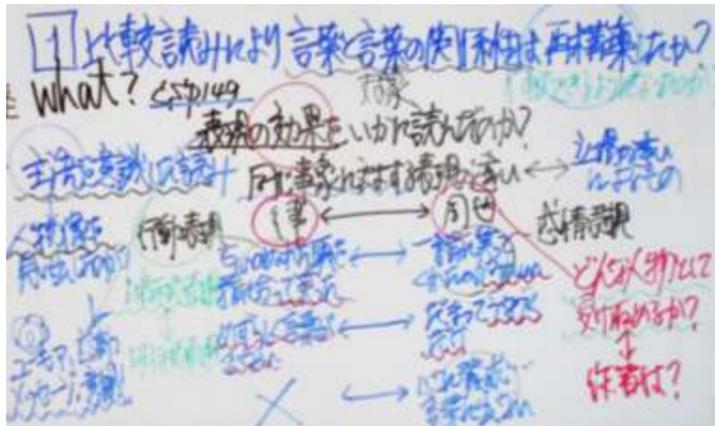
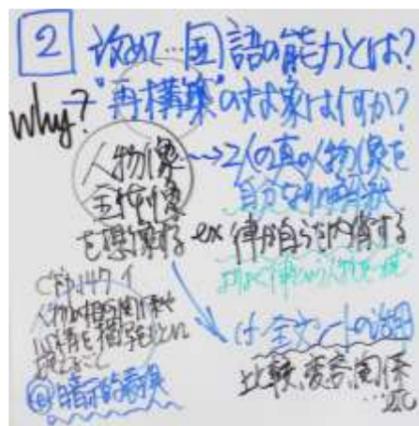
論点整理

【齊藤先生から協議の論点について】

- ①比較読みで言葉(対象)と言葉の関係性は再構築されたか
2つの立場から書かれた文章を読むことによって、両方の文章の関係性に対する読みが深まったのか。
- ②「表現の効果」をどのように深めていったか
「天気雨」という同じ場面だけど、立場によって表現が違う。この表現の違いを読んだ次が重要。この違いは、子供たちにどう届いたのか。その表現の違いの効果も、いかに読み深めていったか。

齊藤先生より

2022.06.27
授業研究会No.1
豊津第一小学校
山埜先生
constantin
①What? 視点
②Why? 動機
③How? 局面



WHYの視点

再構築の対象は何か?

今回は、人物像と作品の全体像が再構築の対象。つまり、2人の真の人物像を自分なりに解釈するという。

学習指導要領解説編p147読むこと(1)イには、「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること」と書かれている。内容は一切かかれておらず(コンテンツフリー)、育成すべき能力が書かれている。公教育である以上、学習指導要領に基づき、質の高い教育を提供しなければならない。

この能力を育む手段としての比較読みを実現するためには、山埜先生のように、全文シートを活用することが有効。同じ部分に番号や印を付けることで、比較対象が子供たちにとって見えやすくなり、同じ事象に対する表現の違いの読み取りや、人物像の把握が変わってくる。

WHATの視点

比較読みにより、言葉(対象)と言葉の関係性は再構築したのか?

今日の授業では、「周也はどう書いている?律は?」等、同じ事象に対する表現の違いは出し合っていた。しかし、重要なことは、「その違いがどういう効果を持っているか」ということを子供が考えていたかということ。そのことによって、これまでに読んだ人物像と違った見方を持つことができたかということが大切。それが学習指導要領解説編p149の「表現の効果」に書かれている。

例えば、周也は、「一緒に笑ってくれたことが嬉しい」と、感情表現で明示的に表しているのに対して、律は、「互いに濡れた頭を指し合って笑った」という行動表現、つまり暗示的表現で表している。そこで、例えば、「律は、周也のことをどう思っているのだろう。」と深掘りしてほしい。それが、表現効果を読んでいるということになる。

HOWの視点

言語活動と読みの局面

今回の授業の言語活動は、「リライトを書こう」という目的的活動といえる。ここで重要なのは、「ゴールは何か?」「動機はあるか?」の2つ。つまり、「なぜ、3人称の話を書かなければいけないか」子供たちに、リライトへの動機があったかが重要。その目的的活動を支えているのが、国語の問題解決のプロセス(PDCAサイクル)ともいえる、読みの学びの4つの局面(把握・精査・解釈・形成・共有)。この局面は、単元全体だけでなく、単位時間の中でも行き来しながら進んでいくことを認識して、「読むこと」の授業を行うことが大切。3回のリライトは、このプロセスを繰り返し経ているので、「読みの違いを子供が自覚しているか」が重要。そうでなければ、同じ活動を繰り返すだけで、子供は成長実感を感じることができない。

受講者の声

- ・教材研究会から一緒に行くことで、参加している先生方とも授業の良さだけでなく、前回に立ち戻り、疑問について話すことができて、とても有意義でした(N先生)。
- ・「比較読みによる言葉と言葉(対象)の関係性の再構築をするには」ということについて、具体的に知ることができました。しかし、それを自分の単元の中に入れていくかについては、まだまだもやもやしています(S先生)。
- ・また、内容ベースの思考が抜けず、具体的に何を考えるのか考えています(T先生)。

【編集後記】現行学習指導要領の基本コンセプトは、「主体的・対話的で深い学び」。つまり、主語が子供であること。それに対して、「指導と評価の一体化」の主語は誰でしょう。これは、教師ですね。では、同じように主語を子供に変えると…。それは、「学びと自らの成長、または自らの成長実感」と言えます。「できることがいっぱい増えた!」と自分の成長を実感できる授業が、吹田市中で、日本中で溢れていると想像すると何とも幸せな気分になりませんか。(文責:教育センター 小林)